

令和3年度 教養学部地域社会学科 学校推薦型選抜（一般）講評

1 出題の意図

課題文は、『シティ・ファーマー ——世界の都市で始まる食料自給革命』（ジェニファー・コックラル＝キング著、白井和宏訳、白水社、2014年）の一部である。筆者はカナダのフードライターである。筆者は、私たちの生活が単一的で工業的な食料生産体制に依存し、極めて不安定な状態にあることに問題意識を持ち、都市農業にその活路の一つを見出して、ロンドンやロサンゼルス、バンクーバー等における都市農業を調査し、将来における食料の安全保障の必要性を訴えている。本書は、カナダ、アメリカ等世界で出版され、2011年に社会的公正を表現した作品を表彰する「デイブ・クレーベル・フリーランスライター賞」を受賞した。

設問は、こうした世界における食料問題に関する課題を取り上げ、前後の文脈から読み取る読解力や要約力を問う（問1、問2）とともに、受験生のこれまでの社会課題に対する学習及びそれらに対する意見の論理展開力を問う（問3）出題とした。

2 評価のポイント

問1

問1は、読解問題である。「従来型の農業が『工業型農業システム』へと変化していった経緯」について読み取り、要約することが求められる。

評価のポイントは、1) 世界の人口が急増し、戦争がしばしば飢餓や食料不安により起きたこと、2) 全ての人々に十分な食べものを供給する方法を見つけることが、アメリカにとって世界的な使命になり、軍需産業の技術を用いて農薬、除草剤、化学肥料を製造したこと、を時系列に沿って述べられたどうかにある。

問2

問2は読解問題である。「都市の人口が空前の規模で拡大している理由」について読み取り、要約することが求められる。

評価のポイントは、1) 自給型家族農業から、大規模な工業型農業が主流になったこと、2) 農作物の価格が安くなってしまったこと、3) 農業を続けられなくなって、都市に移動してきたこと、について触れられているかにある。

問3

問3は論述問題である。問いは、前段の「食料が安かった時代はもう過ぎ去ったのだ」と筆者が述べている理由をまとめる問い、後段の本課題文で見てきた時代状況を踏まえて現代の「食」に関する問題を一つ取り上げ、それを解決するための方策について論考する問い、の二段階で構成される。

前段は、「食料が安かった時代はもう過ぎ去ったのだ」と筆者が述べている理由について、課題文中から読み取り要約することが求められる。評価のポイントは、課題文を貫くキーワード「工業的な食料生産システム」が崩壊しつつあること、2) これまで「工業的な食料生産システム」を支えてきた要因の変化、について述べられているかにある。

後段は、課題文で見てきた時代状況を踏まえて現代における「食」の問題について具体的に提示し、その解決策について論考する問いである。根拠を示しながら、具体的・論理的に記述することが求められる。ここでは、本学募集要項の本学科アドミッションポリシーにも記載されているように、「国内外の様々な場所にある地域社会の諸課題に幅広い関心を持ち、「地域課題の解決へ実際に活かしたいという意欲を持っている」といった日常における社会問題へのアンテナの張り方や勉学への姿勢が問われる。

3 講評

問1

引用すべき箇所が多岐にわたっていたため、バランスよく整理できている、満点に近い答案は少なかった。

質問の意図としては、工業型農業が普及した「経緯」であるため、第二次大戦前の「人口急増」などから触れて欲しかったが、ほとんどが戦後の状況の説明に止まっていた。

最大のポイントは、「アメリカ」が国際政治上の戦略的意図から普及させたということだが、「アメリカ」という主語や、「冷戦下の安定化」という背景に触れないものも少なくなかった。

さらにその手段のポイントは、「軍事技術の転用」であり、その結果が「化学肥料や除草剤の供給」だが、これらに具体的に触れていない答案も散見された。

問2

下線部の前後から引用すればよく、全般的に非常に良くできていた。

家族型農業から工業型農業へ移行し、その結果大量生産で農産物価格が下がり、家族型の農家が転職（移住）せざるを得なくなった、という3点がポイント。多くの答案が3つともを含んでいた。

米国における工業型生産の普及が、（世界の）農産物価格を下げ、それが発展途上国に波及して、農家の都市への移住が起きたとの答案が散見された。これは、〈中略〉の後からの引用と思われるが、当該問題の下線部からは離れており、理屈も異なるので、減点した。

問3

前段は、課題文から引用しながら要約を行えばよく、比較的良くできていた。

「工業的な食料生産システム」を支えてきた要因の変化（例えば、安価な石油の時代が終わろうとしていること、気候変動により穀物の収穫量が減少していること等）だけに触れ、「工業的な食料生産システム」が崩壊しつつあることに触れられていない場合は、減点幅を大きくした。

「食」の問題の提示について、例えば「日本の食料自給率の低下」のような大きなテーマを掲げてしまい、解決策の論考が空想的になってしまった解答が一部に見られた。自分ごととして手の届く範囲で考えられる、根拠をもって理論展開できるテーマ設定が必要である。また、具体的に「食」の問題を提示できず、論考が進まなかった解答も見られた。

「食」の問題は、例えば「フードロス」「農業の担い手不足」「生産地における児童労働」「孤食」等を提示し、それらの解決策として「フードバンク」「六次産業化」「フェアトレード」「こども食堂」等を引き合いに出しながら論考を進めたい。

事例や根拠を示しながら具体的に論考し、最後はまとめて締めくくるなど、小論としての体裁についても評価を行った。

社会問題に対する論考を進めるにあたり、「引き合いに出す」「例示する」ためには、日頃からニュースや新聞、新書等に十分に触れておく必要がある。受験生によって論考の精度のばらつきが見られ、得点差が開いた問いであった。